

大石田自然薯に付加価値を スイーツ・加工品の開発と販売



柄題 冬でも出荷できる
土地課題 作物の誕生

2mを超える積雪量で知られる山形県大石田町。この地で、平成13年より生産が開始された作物があります。それは、「自然薯」。日本が原産の山の芋で、主に静岡や山口、四国、九州などで育てられています。この雪国育ちの自然薯生産に取り組んでいるのが、有限会社明電の代表取締役である海藤明さんが会長を務める大石田町新作物開発研究会です。遡ること三十数年前、冬期間の収入を得るために多くの農家が出稼ぎに行っていた時代、それを解消するため「冬でも出荷できる新作物を栽培しよう」と、海藤さんが仲間と共に起ち上げました。当時は、たらの芽やわさびを栽培していました。それが、それから二十年ほど経ち、減反が叫ばれるようになると、山形県全体が蕎麦へ転作する流れに、地元で栽培される農作物の幅が狭くなっていると感じた海藤さんは、新しい作物として、蕎麦との相性が良い「自然薯」に着目しました。それから十数年、自然薯栽培の先進地で学んだ栽培方法、そして研究会で考案し



た技術を活かすことで、50本から始まった自然薯栽培は、数万本という単位まで増加。現在は14名の会員が、日々、生産と販売に取り組んでいます。

取組経緯 **さらなる販路拡大のために**

大石田のように雪深い地域で栽培する場合、自然薯の蔓に雪が付着すると雪の重みで切れてしまい、掘り出す際の目印がなくなってしまうため、初雪の降る11月頃には収穫を行い、掘り出せなかった分について

工夫 **地域と作る新しい自然薯の形**

ては雪が解けてから収穫を行っています。そんな雪の多さを活用して始められたのが、雪室への貯蔵です。春から夏の間、高湿度かつ低温2℃に保たれた雪室の中に自然薯を保存しておくことで、一年中自然薯が出荷できると思います。甘みとコクのある味わいと粘りの強さから、大石田産自然薯の人気は徐々に高まっていますが、通常の食生活では大量消費されにくい食材であることから、この度、さらなる販売増加と付加価値向上のため、プレミアムスイーツと業務用加工品の開発に着手することになりました。

研究会では、すりおろした自然薯をパックに入れ冷凍保存した「おろし自然薯パック」と、乾燥させた自然薯を粉末状にした「自然薯パウダー」の加工販売を開始しました。そんな中、平成24年度に村山総合支庁により開催された「やまがた野菜スイーツ創作レシビコンクール」。そのプロ部門で、尾花沢市に本店を置く菓子店「うるこや総本店」が考案した、大石田産自然薯を使った「自然薯ロール」が見事グランプリを獲得しました。すりおろした自然薯を入れることでしっかりと仕上げた生地、そして生クリームの中に細長く切った生の自然薯を入れることで生み出したシャキシャキとした食感が高評価を得ました。また、「おろし自然薯パック」の需要も次第に増え、最近では県内の各温泉旅館や東京都内の飲食店などに納品されています。

成果 **その美味しさを次は県外へ**

現在、山形県立村山産業高校では、自然薯を使ったパンやドレッシングの商品開発、さらにはバイオテクノロジーを活用したウィルスフリー苗の生産が行われています。「そんな風地域と連携し、様々なアイデアをいただきながら、皆さんと共に商品づくりを行っているところで」と笑顔を見せる海藤さん。「一緒にやろう」というスタンスのもと、海藤さんは60

今後の展望 **定着しつつある大石田産自然薯**

70代が多くを占める生産者の方々の指南役として、日々楽しみながら商品開発と販路拡大に取り組んでいます。そんな海藤さんが現在、新たな納品先として注目しているのが、百万都市・仙台。仙台と言えば牛タン、牛タンと言えば麦とろです。私たちがとって仙台は隣の町という感覚。積極的に足を運んで営業をかけていきたいと考えています」と、今後の展望を話してくれました。

事業の今これから 令和元年12月現在

仙台市への販路拡大を目指して、現在でも百貨店でのイベント出店などで徐々に開拓を進めているという海藤さん。お客様から良い反応もいただいているそうです。また、地元高校との地域連携も続いており、現在では小学校も加わった三者連携で体験交流もしているとのこと。小学生、高校生とともに自然薯の栽培から販売まで授業の一環で進めています。

開発で完成した「自然薯ロール」は、賞味期限の短さから現在は販売を中止していますが、これからはお土産品として喜ばれるお菓子などの開発を考えていきたいとのこと。「商品開発や製造にご協力いただけるお菓子屋さんや製造業者さんなどを新たに探しながら進めていきたい」と今後について話してくれました。

事業実施体制

(助成期間H24.10～H25.9)

(農林漁業者)

大石田町新作物開発研究会
(雪国育ち大石田自然薯の栽培、管理技術)

(連携) ↓ ↑

(中小企業者)

有明電
(商品企画、製造、販売)



粘りの強い雪国育ちの自然薯がたっぷり入った、うるこや考案の「自然薯ロール」



会社概要

有限会社明電／大石田町新作物開発研究会
住所／〒999-4121 山形県北村山郡大石田町大字横山99-1
電話／0237-35-2316
ホームページ／http://www.jinenjyo.com



大石田町

大石田町新作物開発研究会 会長
有限会社明電 代表取締役 海藤明さん